

上 奏 案

願ひて支那駐屯軍の現状に就て申上げます

支那駐屯軍は七月末北平附近支那才二十九軍を脅威致しましたが後平津地方の安定及交通線の確保を計り一方軍に増派されました才五才六及才十の各師団並其他の軍直轄部隊を北平を中心とする地区及天津附近の地区に集中して爾後の作戦を準備することを努めました、然るに北平附近天津附近其他に敗殘兵の出沒があり之等の掃蕩に腐心して居りました。又支那 央軍の一部は迅速に察哈省に侵入し南口附近に拠りましたので八月中旬先づ独歩才十一旅団に之を攻撃せしめ次で逐次戦場に到着致しました才五師団を加へ銳意之が力攻に努めたので御座ります。

一方才二十師団は主力を以て永定河右岸長辛店附近を確保し才六師団は北平南方永定河の北岸地区に集中致しました、之等の部隊は應急動員部隊でありまして充足人馬が目下輸送の途中で御座ります。

才十師団は海路太沽に上陸し、直に天津附近に集結し、目下屬廠方向に攻撃の目的を以て南進中で御座ります。

南口方面の戦況は地形峻峻の爲、仲々思ふやうに進みませんでした。才五師団の戦力が逐次充実するに従ひ、此方面より戦況が發展し、遂に懷来平地に進出しました。同師団の左側を脅威せんとして保定方面より北上しました敵に対しましては、才二十師団の陀里村高地に対する攻撃と才六師団一部の門頭溝西方山地の確保とに依り、之に反撃を加へる企図で御座ります。平津地方安定の状態は未だ十分では御座りませぬが、軍の作戦準備の進捗と平行して掃蕩宣撫相俟て、逐次良好に向ひつゝあるものと確信致します。之には河辺兵团及才二十師団の一軍か主として之に當つて居ります。

以上の経過中各兵团は屢々敵の頑強なる抵抗に遇ひ、又天津地方は近年稀有の降雨に禍され、飛行隊の活動を阻害せられ、或は道路泥濘の爲、部隊の行動遲滞する等、作戦上種々の障礙を受けましたが、各兵团の士氣は

頗る旺盛で御座りまして夫々作戦の目的に向ひ邁進中で御座ります  
酷暑に続く霖雨に依り或は疾病の多発を見るかと相当憂慮致しまし  
たが目下の処ではさほどのこともなく一に將兵以下士氣緊張の結果と存  
じます

之を要しまするに各兵団の中才五師団及独歩才十一旅団並航空兵団  
は察哈省に向ひ作戦中で御座りますが其他の各兵団は尙集中中で御座  
りました且出来る寸南方に地歩を確保し二期作戦の準備に努力しつ  
つある状況で御座ります後方施設も之と同時に鋭意準備中で御座りま  
すから九月中旬には概ね作戦準備が整ふものと信じます臣等益々死力  
を竭して作戦を練り皇軍の威武を十分に發揮し以て皇恩に酬み奉らん  
ことを期します

軍現下の情勢判断

昭和十二年八月二十二日  
支那駐屯軍司令部

軍は現下の情勢に鑑み先づ關東軍と協力して察哈爾及内蒙方面に侵入せる敵を殲滅して滿洲國西兩境の安定を図ると共に此間平津地方に於ては其安定を鞏固ならしむるを要す  
此間將來実施すべき對兩方作戰を準備するを要す

(処置)

一、D方面は攻堅を繼續せしむ

山地帯を突破せば張家口に向ひ作戰を行ふ、此際要すれば兵力を増加することあり

二、D方面は概ね現在地に於て人馬を充足したる後夫々該方面の敵に一線を與へて涿州、固安の線に進出し要点を堅固に占領すると共に將來の作戰を準備す

三、D方面は津浦線方面の敵を殲滅して馬廠附近に進出し之を堅固に占領す

ると共に将来の作戦を準備す  
情況に依り主力を他に転用し若は一部を軍直轄とすることあり

1567

対南方作戦構想

昭和十二年八月二十二日  
支那駐屯軍司令部

才一 方針

一、軍は河北省に侵入せる敵野戦軍を求めて之を隨時隨處に殲滅的に撃滅す  
之が爲津浦線方面作戦の進展に伴ひ其兵力へ一部爲し得れば大部を平漢線方面に転用し決戦の目的を以て保定に向ひ前進す  
決戦の時期は諸準備の許す限り成るべく速に之を選ぶも九月中旬と豫定す

二、爾後の作戦指導は情況に依り之を定む

才二 指導要領

三、軍は約三師団（才六、才二十師団並才十師団の一部若は大部）を以て概ね平漢線方面に沿ひ攻勢の目的を以て保定に向ひ前進す  
四、津浦線方面に在りては10Dの一部を以て馬廠附近に於て軍の左側を擁護せしめ主力を平漢線方面に転用す

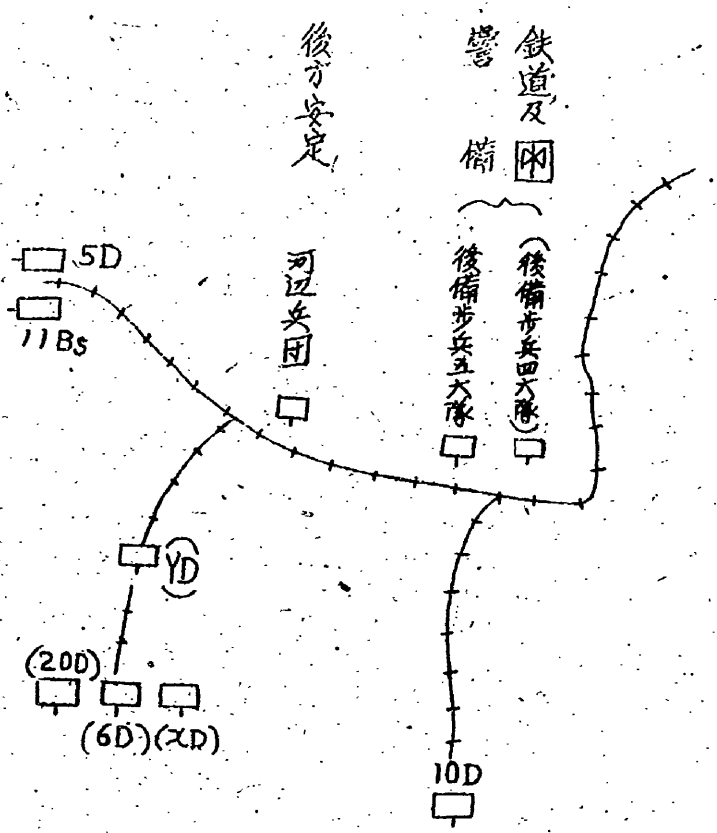
五 平綏方面に在りては5Dを以て關東軍と協力して察哈爾省を席捲し之を確保せしむ

六 三項軍の攻勢準備間敵若し攻勢を開始せば隨時前進を開始し隨所に之を蠶滅す

カ三 北支方面使用兵力

七 軍は現兵力を以て現任務を達成し得へし又對南方作戰亦之を以て遂行し得へしと雖戰面の擴大後方連絡線の延長に伴ひ保定附近の敵に殲滅的打撃を與え復起つ能はざるに至らしめんか爲には左の如き兵力關係に在らしむるを要す

尙兵力不足を補ふ爲大規模の瓦斯、特種彈、火焰及特種兵器、器材等  
 を使用するを要す



( ) は 増加兵力を示す



北支に於ける軍状況の概要

一、敵軍の状況

一、目下河北省内に在る敵は戰鬥員約四十万内外にして平漢線方面は涿州、固安の線保定附近石家莊附近の三線に津浦線方面は馬廠附近、滄州附近、德州附近に各々拠点たる陣地を構成し其中間に之を連接する陣地を処々に構築しあり

敵の決戦を豫期する陣地は保定滄州の線ならん

二、察哈爾省に進入せし敵は一部を以て平綏線方面を山西省境に主力約五ヶ師団は饒来より蔚県に通ずる道路方面に後退し其主力は退路を保定方面に採らんとするもの如く目下才二十師団の西方山地内に在る敵と共に注意を要する存在なり

三、敵の抗日意識旺盛なると戰場に於て退却を許さざるためか最后迄陣地に拠つて頑強に抵抗するもの多く屢々小部隊の逆襲を突施し或は夜襲を行ふ等個人及小部隊の戰鬥力は輕視し得ざるものありて整備

は砲兵火力に劣るも歩兵の装備は我に匹敵す

然れ共部隊の系統特に中央軍と傍系軍とにより装備戦力に相違するのみならず指揮統帥上に於ては幾多の欠陥を有するを以て此等の欠陥に乗するの要あるべし

戦場に於て大打撃を蒙りたる軍は殆んど無統制に速く退却するを以て其退却は初めて迅速なり従つて之を捕捉すること相当困難にして機動部隊或は特に準備せる兵力を必要とすることあるべし  
陣地の設備は相当巧妙にして砲撃或は爆撃のみを以てしては退却せず然れ共大規模の攻勢移転を実施するの能力に乏し

※二 我軍の状況（八月三十一日に於ける）

我軍一般の状況左の如し  
一 各兵団の任務

才五師団

配属部隊

独立輕裝甲才五中隊

独立山砲兵才三聯隊

近衛師団才一、才二野戰高射砲隊

任 務

饑來附近に於て態勢を整へ蔚県方向に向ひ敵を急追す又甬口  
(言はず)以遠平綫を警備す

才二十師團

欠除部隊

歩兵才七十七聯隊才三大隊 (鐵道警備)

歩兵才七十八聯隊の二甲隊 (天津飛行場警備)

歩兵才七十九聯隊 (一大隊欠) (軍務備)

配屬部隊

戰車才一大隊

獨立機關銃才四大隊

野戦重砲兵才三聯隊（輜重の一部属）

才三師団才一、才二、才三野戦高射砲隊

独立工兵才四聯隊

区処部隊

独立攻城重砲兵才一大隊（<sup>24H</sup>中隊属）

独立攻城重砲兵才二大隊（独立重砲中隊（<sup>15K</sup>）属（未到着）

三務

一部を以て楊子崗北側高地、公主墳、良郷附近を確保し集中を続行すると共に涿州方向に向ふ前進を準備す

才六師団

欠除部隊

歩兵才十三聯隊（才一大隊欠）

配属部隊

独立経装甲車才六中隊

近衛師団才三、才四 騎戦高射砲隊

才十四師団 架橋材料中隊

才二師団 架橋材料才一、才二中隊 (未着)

才十六師団 二渡河材料中隊

区 艦部隊

戦車才二大隊

騎戦重砲兵才二旅団

迫撃砲才三、才五大隊 (未着)

砲兵情報班

任 務

主力を北平 鐵路南方北平—歸安間に投入 地区に築城し保定又は任邱に向ふ前進を準備す

歩兵二大隊を基幹とする部隊を以て北平西方山地永定河上流方面に前進する隊に対し大安山、東齊堂、紅煤房附近を確保

才十師団

配属部隊

独立軽裝甲車才十甲隊

野戦重砲兵才一旅団（才三聯隊及輕重一聯隊）

近衛師団才五才六野戦高射砲隊

才八師団架橋材料甲隊

才十六師団才一渡河材料甲隊

任務

二十三日以降行動を起し馬廠附近の敵を撃破し同地附近を確保す

同地を占領せば堅固に之を確保し主力を其以北に集結して爾後の機動を準備す

津浦線及南運河の水路を確保す

支駐混成旅団

欠除部隊

歩兵才二聯隊(約一大隊欠) 歩兵才一聯隊の約一小隊

任務

北平に位置し同地附近(通州を含む)の安定に任ず

南口(含む)以南の平綏線を確保警備す

軍豫備隊

歩兵才七十九聯隊(一大隊と二中隊欠) 蘆溝橋に位置す

航空兵団

(歩兵四中隊、高射砲七隊、其他属)

任務

適時主力を以て軍の地上作戦に協力

隨時敵空軍襲撃の準備

軍兵站部

配属部隊

支駐歩兵才二聯隊（一大欠）


歩兵才七十七聯隊才三大隊

鐵道警備

三、各兵団現在の状況

才五師団（懷來）

一部を以て沙盤堡、主力を以て懷來に兵力を集結、充足人馬已に到着し編制は完備し道撃開始独混才十一旅団は延慶に位置す關東軍に復帰せしめらる

才二十師団（長辛店）

数日間の激戦の結果揚子崗北側高地を奪取し所命の線を確保し整理中

充足人馬未到着の爲兵力不足を感じあり

才六師団（龐洛鎮）

主力（四大）を以て固安対岸永定河畔に一部を以て龐洛鎮に集結



し渡河攻撃を準備中

永定河上流方面に派遣せる歩兵四大隊中二大隊は該方面の敵を撃破せば師団主力に復帰する筈なり充足人馬到着し編成完了しあり  
才十師団

馬廠附近の敵に対し王口鎮、呂官屯（馬廠北方約一里）に近迫しあり全部到着しあり

小王莊に進出せる部隊は浸水の爲行動不能にして主力方面に転用中九月五日馬廠攻撃を開始す編成完結しあり

#### 支駐混旅団

北平及通州に位置し治安維持及掃蕩に從事中

山地方面に派遣せる一大隊は自ら復讐中

警備師団司令部砲隊中隊の輸車庫及砲臺等支隊編成中

#### 三島島団の戦力

#### 才五師団

冀察省境山地の戰鬥に於ける死傷は約一千名に近き見込なり即ち師團の戦力に比し約六分の損害の見込とす

#### 才二十師團

才一期作戰以來の損害約九百名にして總人員約一萬名中約一〇分の減少を来しあり 動員師團の約二分の一の戦力を失はん

#### 才六師團

山地方面に四六隊、天津防衛に二大隊を割き師團長は約六大隊（山地方面より二大隊増遣せば八大隊）を指揮しあり山地に派遣せる歩兵才二十三聯隊は約百名の損害あり歩兵才四十五聯隊にも若干の死傷ある見込

其他の部隊は殆ど損害なく戦力充實しあり

#### 才十師團

歩兵才十聯隊は靜海に於て約百五十名の損害を蒙り戦力充實しあり殆ど損害なく戦力充實しあり

支駐旅団

第一期作戦以来の損害約三〇〇名にして旅団戦力の約一割に当る  
四各兵団の本日迄の死傷概況左の如し

師団別戦死傷表（九月一日午前現在）

支那駐屯軍軍医部

区分	戦死	戦傷死	戦傷	計
軍直轄	四二	三	三九	八四
第五師団	三〇五		七〇六	一〇一一
第六師団	一二		二一	三三
第一〇師団	五八	一	一五六	二一五
第二〇師団	一九九	一八	六六一	八七八
支駐混旅	七〇	五	二二五	三〇〇
独混第一旅	三九	一	八〇	一二〇
独混第二旅	一四七	一五	四八一	六四三
航空兵团	九		二	一一
其他	一	一	一四	一六
計	八八二	四四	三三八五	三三一

其後方に關する事項

軍の補給は其の原点を天津及豊台（長辛店を含む）に置き才二十師團に對しては平漢線才六師團に對しては豊台の一部黃村を基点として自動車兵站線により又才五師團に對しては平綏線才十師團に對しては津浦線及之に沿ふ水路を利用して實施しつつあり

平綏線方面に於ける八達峯頂上の隧道は敵の實施せる大障礙の排除に約一ヶ月を要する見込にして同方面兵站線は目下鉄道及道路（自動車を通ず）を併用す

軍従來の兵力は九月十日頃集中輸送を完了する予定にして其の全戦補給用軍需品は之に引続き主として豊台附近に輸送集積し概ね九月二十日頃には完了する予定なり

既に集中輸送の間隙を利用して豊台附近に集積しある軍需品中彈藥は才二十師團及才六師團の爲め其の携行彈藥を合し概ね $1\frac{1}{2}$ 全戦実行の所要量を確保は同方面部隊に對し約十日分の予備を準備しあり

鉄道の復旧は鉄道聯隊及滿鉄従業員の利用によれるも極力従来の營業の復舊利用に努めつゝあり  
軍通信の中樞は従来天津にありしも爾後作戦の進展を考慮し逐次之を豊台に移動しつゝあり  
防疫に就ては特に防疫給水班の運用により良水の供給に注意し未だ惡疫流行の狀況を認めず

才三 平津地方治安の狀況

一、一般の狀況

平津地方治安一般の狀況は北平及天津兩市は概ね事変前の狀態に復しあり

然れども其郊外に於ける県は土匪及敗殘兵横行しありて治安の回復は未だ十分ならず

二、天津及北平市の治安

天津市は治安維持会により目下表面の治安狀態は事変前と大差なき

も市内に介在する英、佛、伊の三国租界は日支双方警備力の及ばざるを利用し共産党、保安隊殘党排日支那新聞等策動の根據地となり流言蜚語を流布し人心を惑乱するもの尠からず之に反し北平は兵火の洗禮を受けざりしと同地は外國租界を有せざるため不逞分子及排日新聞社等は身を措くに処なく続々として天津上海方面に逃避し目下極めて平穩なり

平津兩市共一般に物資缺乏し商況甚だ不振なり、然れども食糧の不足は關係者の努力に依り目下緩和せられあり

三、郊外の狀況

北平及天津に隣接せる諸県中既に交戦地帯となれるものは土匪（敗殘兵）横行しありて治安来た回復するに至らず、又目下端境期の爲食糧の不足を感じあるか如し

#### 四、我居留民の狀況

北平、天津兩市内居留民は目下沈靜しあり

不良日鮮人に対しては断乎たる処置を採ると共に内地、朝鮮及滿州方面より流入せざる如く処置を講しあり

#### 五、支那民心の動向

支那民衆は速に戦禍の終熄せしことを熱望しあるか未だ支那軍戦勝の迷夢より醒めざるもの多く人心の不安、流言の流行、金円流通の不円滑等は皆其原因を此処に存す

近時北支自治運動漸く盛ならんとしつつあり

#### 才四、対外関係事項

一、対外關係に就ては大なる問題発生せざるも天津には英、佛、伊の租界あり日本軍の租界内通過に種々苦情を申出て煩瑣なる問題を惹起するを以て外国租界の大部を軍隊の通行に利用せしめざる方針を以て処理中なり

二、外国租界内に南京系機關或は抗日分子共産党等潜伏し之か制圧意の如くならざりしも漸次驅逐せられつつあり



軍の安全を害する行為に対しては外國人と雖之を彈圧する目的を以て佈告を發せり

三、北平大使館区域は平時協定により軍の作戦に利用するを得ず

四、才三國中独、米は問題なく伊の態度は好意的にして佛國の態度は最近著しく緩和し英國の態度は最も不良なり

昭和十二年八月二十六日 參謀總長 齋藤 仁親 王  
 左記の通り才一軍司令部將校、各部將校、高等文官等の職時職務を命  
 課す

左記

職時職務	兵科、官	氏名
才一軍 參謀長	陸軍少將	橋本 群
同 才一課參謀	陸軍歩兵大佐	矢野 晉三郎
同	同 騎兵中佐	森 越
同	同 砲兵少佐	友近 美 晴
同	同 歩兵少佐	八野 井 安
同 才二課參謀	同 騎兵大佐	木下 勇
同	同 歩兵中佐	櫻井 徳太郎
同	同 大尉	鈴木 京
同 才三課參謀	同 輜重兵大佐	板花 義一

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

副官 暗号掛 瓦斯掛 通信掛 參謀部附

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

歩兵少佐 歩兵大尉 歩兵少佐 歩兵大尉 歩兵少佐 工兵少佐 航空兵少佐 工兵少佐 砲兵少佐 砲兵大尉 歩兵少佐

松尾義人 中根兼次 松本松次郎 谷口吳明 猪俣稔夫 河村源二郎 外山秀雄 上野貞巨 瀧上孟平 中浜吾祐 大河原鉄之助 松岡 倉橋武雄 櫻井徳三郎

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	才一軍	
					經理部 々員	經理 部長	行 本 長	附	衛 兵 長	管理 部 憲 兵 長	部 員	管理 部 長	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	陸軍 歩 兵 大 佐	
		主計 大尉	主計 少佐	主計 少佐	主計 中佐	主計 少將	轄 重 兵 少 尉	歩 兵 少 尉	騎 兵 大 尉	憲 兵 大 尉	主計 大尉	砲 兵 大 尉	
白	清	栗	古	山	住	二	菱	眞	角	小	柿	田	谷
井	水	林	賀	田	谷	瓶	庭	崎	田	林	花	島	口
章		正	隆	純		貞	信	俊	啓	利	彦	重	吳
平	貞	雄	次	徳	悌	夫	二	夫	輔	丑	輔	彦	明

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	才一軍	
	法務部部長	法務部部長		獣医部部長	獣医部部長			軍医部部長	軍医部部長	経理部部長	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	陸軍主計少尉	
		法務官	獣医大尉	獣医少佐	獣医少將	軍医大尉	軍医少佐	軍医少將			
川	阪	矢	新	杉	城	関	市	鈴	山	中	笹
村	瑩	鶴	屋	山	戸		村	木	本	村	沼
壽	津	昌	兼	一	孫	正		赴	順		武
三	吉	良	吉	郎	右	美	浩	夫	市	興	大
					衛						
					門						

訓示

茲に壽一乏きを以て任を闕外に辱くし赫々たる武勳と光輝ある歴史とを有する蒙下兵團を統率して北支に於ける支那軍撃滅の重責を担ふ誠に熱烈忠誠に堪へざる所にして又無上の光榮かり思ふに旧支那駐屯軍司令官麾下諸部隊は華變勃発以來不眠不休絶大の困苦を克服し多大の犠牲を払ひ克く至短時日に優勢の敵を撃碎して偉大なる戦果を獲得し皇軍の威武を普ねく中外に直揚せり壽一の冀ふ所は偏に此等諸部隊並に後統諸兵團等の協同直しきに適ひ挙軍一體勇往邁進戦役其靈の遺烈を顕彰し従来の成果を益々擴充發展せしめ神速且完全に作戰の目的を達成し以て上は宸襟を安んじ奉り下は熱烈なる國民の接援責任に應ふるに在り將兵は夢寢常に才一線に在りて險山深沢を跋渉し或は驚天に飛行を敢行し極風沐雨屢と得るに食なくして劍電彈雨の下に驅馳するの境相を體驗するを以て念とし司令部其他後方に在るものは全般的に努力を一心一線部隊の活動を容易ならしむるの点に集中し以て眞に

一心同體の興を挙ぐるに缺くる所あるべからず

今次作戦の特質に鑑み支那軍に対しては常に急襲鉄鎚的の打撃を加へ速に其戦意の喪失に導くこと特に緊要なり此を以て各兵団は不断創意工夫訓練と相俟ち戦力の更張充実を図り準備を周到適切にし一度動くや疾風迅雷耳を掩ふに遑なく瞠目駭心茫然自失速に敵をして抵抗を断念せしむるの概あるを要す

抑も今次事變に關聯する支那の暴戾は天人共に許さざる所我が峻嚴卓厲而も至公至平なる行動に依り之を膺懲して其迷夢を覺醒せしむるは東洋平和の永遠を期する所以なり將兵宜しく深く思を此に致し常に其進止を堂々たらしめ恩威並び行ひ特に列強環視の裡に於て其挙措克く國際の法規に協ひ皇軍の皇軍たる所以の實を宇内に証示するに毫末も遺憾なかるべし

右訓示す

昭和十二年九月四日

北支那方面軍司令官 伯爵 寺内 壽一

一軍作命甲才一〇号

才一軍命令

九月四日午後七時  
於天津軍司令部

一、中部河北省に進出せる敵兵力は約四十萬に達せるものゝ如く保定及滄州の各地区には各々正面六十軒に亘り稍堅固なる陣地あり  
涿州、固安及雄県、馬廠の線附近には夫々有力なる敵兵團あり  
方面軍は保定滄州の線附近の敵を撃滅する目的を以て速に易県定興白溝河嶺、霸県及馬廠附近の線に進出し爾後の攻撃を準備す  
才一軍司令官の發に下令せる軍隊区分は別命なければ存続せしめらる

二、軍は先づ涿県固安附近に在る敵を撃滅して定興東西の線への進出を準備せんとす攻撃開始に關しては別命するも九月十一日頃と予定す  
三、才二十師団は当面の敵を撃滅し易県南方地区に進出するの準備をなすべし軍予備隊たる歩兵才七十九聯隊の主力（南苑飛行場警備部隊



欠)を復帰せしむ

戦車才一大隊、才三師団才一野戦高射砲隊独立工兵才四大隊の配属を解く其補給養を区処すべし

四歩兵才七十九聯隊長は南苑飛行場整備の二中隊を残置し爾餘の主力を以て原所屬に復帰すべし

五才六師団は固安(含む)以東の地区より永定河を越河攻撃し定興附近に進出するの準備をなすべし

才二師団才一架橋材料中隊の配属を解き新に独立機関銃才九大隊(於龐各鎮)野戦重砲兵才二旅団(才六聯隊欠)を屬す

門頭溝西方山地に在る部隊(師団無給一機は原所屬に復帰すべし)は之を牛島支隊とし自今軍直轄とす

内牛島支隊は前任務を継行すべし新に遺棄才若大隊の一中隊及無線電信才十一小隊を三家店に於て配属す

遺棄才若大隊長は其一中隊を三家店(北平西方約二十軒二條築線路

上永定河左岸）に到り牛島支隊長の指揮に入らしむべし

八、獨立機關銃才九大隊は麗各鎮に於て才六師団長の指揮に入るべし

九、才十四師団長は才六師団の渡河直後固安（含まず）以西に於て渡河

し涿県兩方地区に進出するの準備をなすべし

新に野戦重砲兵才六聯隊（原才六師団區処部隊）才三師団才一野戦

高射砲隊（原才二十師団配屬部隊）才二師団才一架橋材料中隊（原

才六師団配屬部隊）を屬す

師団主力の集結地移動は別命す

七、軍通信隊長は無線電信才十一小隊を三家店に派遣し牛島支隊長の指

揮に入れ又新に才十四師団司令部及牛島支隊と接合才一軍情報收集

所間の通信に任すべし

七、軍直屬部隊は現在地に於て待機すべし

十二、手は天津才一軍司令部に在り

才一軍司令部 香 月 中 將

一軍作命甲才一四号

才一軍命令

九月十一日午後二時  
於豊台才一軍司令部

一、敵は八月下旬以来房山西北方山地より房山寶店鎮、金門關、固安附近を経て永清東北方地区に亘り陣地を占領しあり、  
才二軍は津浦線方面の敵を攻撃中なり

才一、才二軍の作戦地境は郎坊、霸果を連ぬる線（線上は才一軍に属す）と定めらる

二、軍は重点を才六才十四師団正面に保持し当面の敵を攻撃し保定以北の地区に於て捕捉撃滅せんとす

臨時航空兵団は主力を以て軍の攻撃に協力する筈

三、牛島支隊は前任務を続行すべし

四、才二十師団は<sup>1</sup>十日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し涿県北方地区に於て之を撃滅したる後速に易県南方地区に進出すべし

分水嶺七里店、交道、慈安庄の線に在る敵はX+1日以前に驅逐することを得

五才十四師団はX日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し機を逸せず  
大清河（拒馬河）を越えて涿県南方地区に進出し才二十師団正面の  
敵の退路を遮断すべし金門關附近に在る敵はX日以前に驅逐することを得

六才六師団はX日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し固安南方地区  
に於て之を撃滅したる後機を逸せず定興附近に進出すべし  
一部兵力を固安—雄県道上の要地に殘置し敗兵の掃蕩並軍の左側掩  
護に任せしむべし

七各師団の作戰地境を左の如く定む

才二十師団

才十四師団

間

盧溝橋鐵道橋、同道路橋永定河右岸に沿う片点線  
路驛辛法（良郷東方約六軒永定河右岸）梨村（嚴  
辛法西南約四軒）塢頭鎮（涿県東北方約十五軒）、  
涿県を連ぬる線

才六師団

間 大黃堡、固安、高碑店を連ぬる線

線上は左師団に属す

八軍予備隊は良郷に位置すべし

九才一軍砲兵情報班は主として才二十師団正面の攻撃に協力すべし

七近衛師団才三野戦高射砲隊、同才四野戦高射砲隊、才三師団才一野

戦高射砲隊は先任隊長の区処を以て盧溝橋に待機すべし

十二独立工兵才四聯隊（一中隊を欠き兵站自動車中隊の一部を属す）は

才二十師団の前進に伴ひ北平—保定道の交通作業に任すべし

才一軍通信隊は軍司令部各兵団間の通信連絡に任すべし詳細は別命

す

才五師団は豊台に在り

二十一日戦斗司令部所を良郷東側高地に進む

才一軍司令部 香 月 中 將

一軍作命甲才一四号別紙

軍 隊 区 分

牛島支隊

長歩兵才三十六旅団長 牛島 少 將

歩兵才三十六旅団司令部

歩兵才二十三聯隊 (才一大隊欠)

歩兵才四十五聯隊 (才三大隊欠)

迫撃才三大隊の一中隊

工兵才六聯隊の二小隊

無線電信才十一小隊

才六師団衛生隊三分の一

才二十師団 (中將 川 岸 文 三 郎)

配屬部隊

独立機関銃才四大隊

戦車才一大隊

野戦重砲兵才三聯隊

野戦重砲兵才一旅團  
輜重二中隊属

才三師団才二野戦高射砲隊

才三師団才三野戦高射砲隊

才十四師団 (中將 土肥原賢二)

欠如部隊

歩兵才五十聯隊

配属部隊

戦車才二大隊

野戦重砲兵才六聯隊

野戦重砲兵才二旅團  
輜重中隊属

迫撃才五大隊

才二師団才一架橋材料中隊

才十六師団才二渡河材料中隊の一小隊

才六師団 (中將 谷壽夫)

久如部隊

牛島支隊に属する部隊

配属部隊

独立軽装甲車才六中隊

独立機関銃才九大隊

野戦重砲兵才二旅団

才六聯隊及  
旅団輜重半部欠

迫撃才三大隊（一中隊欠）

独立工兵才四聯隊の一中隊

才二師団才二架橋材料中隊

才十四師団架橋材料中隊

才十六師団才二渡河材料中隊（一小隊欠）

軍予備隊

歩兵才五十聯隊

軍直轄部隊



才一軍砲兵情報班  
近衛師団才三野戦高射砲隊  
近衛師団才四野戦高射砲隊  
才三師団才一野戦高射砲隊  
独立工兵才四聯隊（一中隊欠）  
才一軍通信隊

1603

一軍作命甲才二五号

才一軍命令

九月十五日午後一時四十分  
於良郷戰鬥司令部

一、各兵團の勇戦に依り大部の敵は潰乱退却中をり

二、軍は一挙に保定西北方地区に向ひ追撃せんとす

三、才二十師団は前任務に基き速に易県附近に向ひ追撃すべし

涿県以北の敵を撃滅せば歩兵三大隊、野砲一大隊を基幹とする兵力を涿県停車場に於て軍直轄たらしむべし

四、才十四師団は易県西南方地区に向ひ追撃すべし

五、才六師団は滿城北方地区に向ひ追撃すべし

六、作戦地境を左の如く延伸す

才二十、才十四師団間

涿県——涿水南側林莊——易県南方約四軒順村を連ぬる線

才十四、才六師団間

定興——姥村（定興西南方約二十八軒）——獨立標高四一五高地

（滿城北方約十五軒）を連ぬる線

線上は左師団に属す但し才十四師団作戦地域内、涿県——松林店——

涿水道は才二十師団に於て重車輛通過の爲使用し得

七各師団は作戦地域内の鉄道警備に任すべし

八軍豫備隊（歩兵一大隊欠）は平漢鉄道以東の地区を涿県附近に進出

し才二十師団当面の敵の退路を遮断すべし

涿県に進出せば原所屬に復帰すべし

九予は晝合に在り

戦斗の進捗に伴ひ戦斗司令所を涿県次で高碑店に進む

才一軍司令官 香 月 中 將

一軍作命甲才四三号

才一軍命令

九月十八日午後六時  
於豊台軍司令部

一、敵は南方及西方に潰乱退却中なり

二、軍は更に保定西方地区に次で石家莊に向ひ追撃を続行せんとす

三、才二十師団は易県を経て石板山附近に向ひ突進し方順橋（完県東南方約十軒）附近に進出して敵の退路を遮断すべし

才三師団才三才三野戦高射砲隊を易県に於て軍直轄たらしむべし

四、才十四師団は滿城附近の敵陣地を突破し保定西方地区に進出して敵を撃滅すべし 軍予備隊たる歩兵才五十九聯隊才三大隊を松林店に於て其指揮に復帰せしむ

五、才六師団は平漢鉄道方面より当面の敵を攻撃し保定附近に進出して敵を撃滅すべし又機を逸せず歩兵旅団長の指揮する歩兵一聯隊野砲一大隊を基幹とする追撃隊を平漢鉄道に沿ひ道路を石家莊に向ひ追

1606

警せしむべし

新に野戦重砲兵才六旅団（才十四師隊及輕重半部欠）を定興に於て配屬す

六各師団所命目標に進出せば速に隊伍を整頓し爾後石家莊に向う追撃を準備すべし

七作戰地境を左の如く延伸す

才二十師団、才十四師団間

顧村、標高四五〇高地（滿城北方約九杆大册河北岸）、抱陽山（滿城西方約八杆）千家莊駅を連ぬる線

才十四師団、才六師団間

姥村、前代流（滿城東方約十杆、大册河南岸）、保定西門、保定南門、朱莊（保定南方約七杆）を連ぬる線

線上は左師団に屬す

但し才十四師団滿城附近に進出せば易県、——荆山——石頭村——滿

城——完果道は可成速に才二十師団に譲渡すべし

別命ある迄保定城内に宿營すべからず

八、左側支隊は徐水に向ひ追撃すべし

九、旧千軍台支隊及歩兵才五十聯隊才三大隊は高碑店に位置し軍予備隊たるべし

七、歩兵才百十八旅團長の指揮する部隊は到着に伴ひ涿県に集結すべし  
其時機は別命す

六、軍直重砲隊は定興に向ひ前進すべし

五、才一軍通信隊は前任務を続行すべし  
十三、予は疊命に在り

戦斗の進捗に伴ひ戦斗司令部を涿県に次で高碑店に進む

才一軍司令官 香 月 中 將

保定附近会戦に對する兵站能力判断 才三課

判 決 (九月十七日午後六時)

一 兵站は概ね九月二十三日頃迄には保定附近の会戦を準備し得

二 尙九月二十六日に到れば爾後石家莊附近に向ふ追蹙にも概ね追隨し得 本追蹙は成るべく多くの快速兵団を使用するを可とす

又板垣兵団を唐河々谷方面より直路定州以南に進出せしむることは易渠方向より後方連絡線を変換することに依り補給等に遺憾なきを期し得べし

三 九月二十三日頃末地附近に於て集積し得る軍需品の數量は概ね次の如き見込みなり

彈 藥	小 銃 彈	各一挺宛	五〇発
機 関 銃 彈			二、〇〇〇発
野 砲 彈			三〇〇発
十 槽 彈			三〇〇発

備考 糧 秣 十五 榴 彈  
才一線携行彈藥數は本表以外とす  
一〇師団分 一〇〇発

1610